



其結果特別讀者を募りし次第に候

たり

【『みづる』特別讀者募集を試み候處幸に五六の賛同者を得申候、この分にては遠からず我等の希望を達し得べしと存候、就ては來月號より多少面目を一新し得べく候

【特別讀者の數は多きを厭はず、希くば此際進んで御賛同あらんとを御依頼申上候

△全研究所に於ては二月第一月曜日より毎週引續き夜間自由研究科を設け人體モデル寫生をなせり、講師の承認を得れば何人にも出席し得べく會費は一週間金六十錢なりと

【京都の某氏より、幹部諸氏の肉筆畫を時々抽籤等の方法により讀者一般に頒たば購讀者を増すべく、決して金時計的のものと性質を異にする故差支あるまじとの提案有之候

【本號の口繪は久々にて石版を用ひ申候、泰錦堂にても非常に注意を拂はれ候に付稍満足すべきものを得申候、原畫は九ツ切のスケツチに候

△程ヶ谷小學校にては三月二十二日方二十四日迄スケツチ展覽會を催ふし、日本水彩畫會横濱支部員の出品もあるべく、猶參考品として日本水彩畫會幹部諸氏の作も陳列せらるべしと云ふ

之候

【本號及び前號の中繪は何れも應募せられしものに候

△横濱みどり會にては四月十八、十九の兩日伊勢崎町一丁目石田亭に於て春季展覽會を開き、會員所作の繪畫を陳列すべしといふ

【成程結構なる思付とは存候へ共、世間の射倖心に訴へてまでも讀者を殖さんとは希はず、且秩序的に着實に研究を勧めつゝある本誌の特色に對してもかゝる企は如何と思はれ候まゝ、兎に角熟考の時間を御與へ下されたく候

【丸山晚霞氏は去月下旬無事歸京被致候、其作品と見聞記は次號以下續々掲載すべく都合によつては臨時増刊を出すべく候

近時雜聞

△小樽白百合會にては四月初旬その第二回展覽會を開くべく、會員作品のほか日本水彩畫會幹部諸氏の作も借受陳列すべしといふ

【本誌發行の當時と今日とを比較せば、印刷製版用紙等何れも幾分かツ、は高價に相成居、實際經營は容易に無之候、既に實費に於て賣價と大差なき本誌の如きは、タトエ二百三百の讀者を増せしとてさして影響は無之候、夫よりも吾等の力によつて幾分にも資金を投入し、雜誌の改善を圖りたく

△日本水彩畫會新年會は一月二十六日研究所に於て催したり、來會者六十名、種々な餘興ありて極めて盛會なりし

△和歌山師範學校内の五月會第二回展覽會は二月十一日同校内に於て開會、出品八十餘點何れも眞面目の作のみにて、成績良好なりしと、且會計上の都合により繪はがき

のバザーを開きしにこれまた好成绩を収め得たりといふ

繪ハガキ競技會(第卅四回)

課題

人の顔(寫生) 菜の花(圖案)

×切四月三十日、發表五月初旬

○出品の數に制限なけれど粗雜なるものは其儘返却すべし

○出品の際會費金五錢(會友及特別讀者は不用)を送付すべし但開き封の中に切手を入るべからず

○宛所は春鳥會

○詳細の規定は「みづゑ」十九號以前の各號にあり

編者より

◎海老名君へ 北上川は中々骨折られた作と拜見します、水が濁つてゐるのと樹木に性質が見えず山と樹との間に距離のないのが欠點だと思ひます◎寺田氏へ 水仙は中

繪として結構ですが季節を過たので用ひかれます、中繪應募者は三月送るなら五月の花をかくといふやうに季節に先じられんとを望みます◎須田氏へ 君の冬といふ漫畫は面白いが前と同じ理由で雑誌へ載せられません

問に答ふ

■一 初學者のために頒たる、肉筆臨本の筆者二 幹部先生方の御寫眞を相當代價にて分譲し下さるや三 L S會は何處にありや(花輪S O生)◎一 筆者は幹部諸氏のうちにてなるべく指定に應すべし二 希望の方には差上てもよけれど只今誰も持合はなし三 知らず■木口木版に要する刀類の賣捌所(小樽紫明生)◎取調べて其内報告すべし■一 貴會發行の水彩畫に關する臨本等の代價二 太平洋畫會研究所并に東京美術學校の所在三 日本水彩會研究所々員の肉筆水彩畫を求めたし代金何程位ひにや(陸中花輪S O生)◎一 印刷の善美を望むがため本會にては僅かに大下氏の水彩風景

畫帖(三十錢)を發行せしのみ二 前者は下谷區谷中眞島町後者は上野公園三 別に書狀を以て問合はされたし■O W水彩畫紙とオートマン紙と同一のものにや(H M生)◎オートマンといふ紙を知らず■寫眞例題集の内容定價發行所(須崎正俊)◎廣告欄を見らるべし■版のなぐさみ』はあれきりなのですか(紫明生)◎其うち引續いて出します■鉛筆畫で形を正しく稽古するほかに詩趣あるやうな繪を描いては如何でせうか(樋谷生)◎正しき寫生の力を應用して興味多き繪を作るはむしろ必要な事です■『みづゑ』特別讀者の拂込金が壹圓以上とあり然らば其金高に應じて大なる繪を頒たる、にや又參圓拂込むときは一枚壹圓の割にて三枚の繪の分配を受くることを得るにや(宇都宮汀華生)◎然り

讀者の領分

■北海道から貴會の万歳を祝し奉り候(S M)■洋畫講義録十三册(全部終了)相當代價にて譲りたし望の方は小樽區手宿裡町十六、本山清吉氏方佐々木鍋吉へ御申越あれ■「みづゑ」發展のため特別讀者募集は大賛成僕も其一人となりました諸君も協同して一日も早く口繪を一葉増すやうにして貰いたし(浪華S生)